

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会

持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第24期・第2回）議事要旨

日時：平成30年8月30日（木）10：00～12：00

会場：日本学術会議 5-A（1）会議室（5階）

出席：窪川かおる、鈴木康弘、谷口真人、花木啓祐、日置光久、氷見山幸夫、山形俊男、山口しのぶ、小金澤孝昭、小松輝久

オブザーバー：川上真哉、川路美沙、塚田昭一（以上、海洋教育と人材育成小委員会より）、小田宏信、市瀬智紀、鈴木克徳、小林亮（以上、ESD・SDGs小委員会より）

配布資料：

資料1：持続可能な発展のための海洋教育と人材育成小委員会設置提案書

資料2：持続可能な発展のための海洋教育と人材育成小委員会名簿

資料3：ESD・SDGs小委員会設置提案書

資料4：ESD・SDGs小委員会名簿

参考1：フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会設置要綱

参考2：分科会委員名簿

参考3：委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン

議題：

(1) ESD・SDGs小委員会役員を選出について（小委員会議事）

(2) 分科会の運営について

- ・今後の進め方として、分科会と小委員会を原則として同日ないし同時開催して一部の時間を小委員会に充てるなど、適宜連携して進めることとした。
- ・学術会議の会議室の使用について以下を確認した。30日前までに申請すれば土日の使用は可能。公開シンポジウム等は遅くとも2ヶ月前の幹事会に間に合うように親委員会から申請。学術会議講堂を使用する場合は四半期ごとに申請（2018年1～3月分は締切済み。2019年4～6月分は本年12月幹事会）。

(3) 持続可能な発展のための海洋教育と人材育成小委員会の設置について

設置は承認済み。小委員会世話人の日置分科会委員から設置の趣旨等説明の後、意見交換。

- ・本分科会が扱う範囲は広いが、小委員会としては主に初等中等教育の①課題整理、②カリキュラム開発にターゲットを絞る。
- ・想定される教科枠は、総合学習、理科、社会、家庭科等。
- ・現状では海洋に関する教育は新学習指導要領等に明記されていないが、良いコンテンツが提供されれば、現状でも地理総合等に入れられる可能性がある。

(4) ESD・SDGs 小委員会の設置について

小金澤小委員会委員長より、小委員会の趣旨および進め方について以下の通り紹介され、意見交換をした。

- ・小中高との連携を実践している成蹊大学、玉川大学、宮城教育大学を中心に進めたい。
- ・地域との連携については、地域を変えることを視野に ESD 活動支援センターに期待する。
- ・ESD 円卓会議、ユネスコスクールに詳しい委員を小委員会に含めたい。ESD 学会とも連携したい。
- ・学校のカリキュラム、学校の地域との連携についても検討したい。
- ・海洋教育小委員会とも連携して進めたい。

(5) 分科会に関する国際的・国内的動向について

FE および ESD、SDGs に関連して、以下の情報提供と意見交換が行われた。

- ・FE の方向性として国際的には「教育」がまだ弱いのが現状。FE のような国際プログラムは資金の多寡に大きく左右されるが、学会や学術連合における研究活動は、当該組織に資金が無くても一定の成果をあげることができるので、両者の連携が必要。
- ・ISC (国際学術会議) においては FE のプレゼンスが低下。今後は FE、SDGs、ESD が連携を一層推進すべき。
- ・ISC は教育重視を鮮明に打ち出しているため、ESD を応援できる。
- ・地球研では、Top-down flaming と bottom-up 型研究との関係を議論している。教育・人材育成をどのような体制で進めるかが課題。
- ・ユネスコでは価値教育を統合して市民性の向上への取り組みを重視。2019 年ユネスコ week では、価値教育と SDGs と学校教育の関連性が焦点。
- ・8 月 27 日に開かれたユネスコ国内委員会教育小委員会で、ESD グローバルアクションプログラム (GAP) が終わる 2019 年以降の ESD の推進についての検討がユネスコを中心に進められており、来年のユネスコ総会を経て、国連総会で決議される予定であることが紹介された。ESD は、SDGs を実施するために必要な人材育成全般を推進することが期待されている(ESD for SDGs: ESDGs となる方向)。

(6) シンポジウム・ワークショップの開催について

- ・2019 年 4~6 月の週末に公開シンポジウムを開催することとした。12 月幹事会へ申請 (親委員会からの申請書提出期限は 12 月 12 日)
- ・次回の分科会は 10 月 24 日 (水) 13:00~に開催する。小委員会も可能であれば同時ないし同日に開催する。
- ・1 月頃に分科会・ワークショップを開催することとし、次回分科会でその提案書を審議、10 月末までに親委員会へ提案→親委員会で審議→11 月 14 日までに事務局に提出、11 月幹事会 (11 月 29 日) に付議する。

(7) その他 →とくになし